

全国高校バスケット(ウインターカップ)県予選本大会男女アベック優勝



全国高校バスケットボール選手権県予選本大会が大崎市古川総合体育館で開催され、男女ともに仙台大学明成が優勝を果たしました。男子は10年連続15度目。女子は2年ぶり8度目の優勝となりました。18日には男女の決勝が同時刻にあり、ちょうど昼休みの時間帯でもあり、アトリウムのスクリーン上に男女それぞれの映像が映し出されると、期せずして全校生徒が一丸となって応援することが叶いました。ウインターカップは12月23日から、東京都で開催されます。



左側男子・右側女子の試合を放映中 ▲
 ←男子優勝決定!! 画面をクリックしてみてください
 女子がラスト3秒で3点シュートが決まり同点に追いつく、白熱した展開!!

やまざき いぶ

《山崎一渉主将のコメント》

ウインターカップ予選を終えて、まずは、ウインターカップ本戦につながる県予選を、無事優勝できてよかったです。しかし、課題が多く残った大会だったので、本戦までに調整し、日々の練習をがんばり、チーム一丸となって二連覇できるようにがんばります。

応援よろしくをお願いします。

▽男子決勝リーグ

仙台大明成	103-32	利府
仙台大明成	117-52	東北学院
仙台大明成	148-22	東北

▽最終順位

① 仙台大明成	3勝
② 東北	2勝1敗
③ 東北学院	1勝2敗
④ 利府	3敗

10年連続15度目の優勝

女子決勝リーグ、東北―仙台大明成 シュートを決める
仙台大明成・木内(右)



▽女子決勝リーグ

仙台大明成	100-30	東北
仙台大明成	83-45	尚綱学院
仙台大明成	79-73	聖和学園

▽最終順位

- ① 仙台大明成 3勝
- ② 聖和学園 2勝1敗
- ③ 尚綱学院 1勝2敗
- ④ 東北 3敗

2年ぶり8度目の優勝

おおくぼなぎさ

《大久保凧紗主将のコメント》

全校生徒・教職員の皆さん、応援ありがとうございました。皆さんの声援が力となり、ウインターカップ予選を優勝で終えることができました。ウインターカップ本戦でもチーム一丸となり、目標である2回戦突破・全国ベスト4を達成するために良い準備をし、勝ち進みます！

引き続き応援よろしく申し上げます。

○…守備からリズムつくる
女子の仙台大明成は2年ぶりに全国選手権の切符を手にした。東北、尚綱学院を相手に危なげなく2連勝。2試合とも50点以下に抑え、安達監督は「機動力を生かして、よく守ってくれた」と選手をたたえた。

3年生の山田がひたむきにリバウンドを拾って流れを引き寄せ、2年生の三浦や木内が積極的なプレーで勢いをもたらした。全国では2年前に果たせなかったベスト4が目標。当時ベンチ入りし、今回は攻守の要としてチームを引っ張る大久保主将は「守備からリズムをつくるパスケをもっと磨きたい」と誓った。



延長戦はアトリウムで多くの生徒の皆さんが応援しました



宮城県高校バスケット 仙台大明成が男女アベックV

2021年10月20日付け 『スポーツ報知』から引用

男女の優勝決定戦が行われた。女子は延長戦の死闘の末、仙台大明成が聖和学園に79-73で競り勝って、2年ぶり8回目の優勝を果たした。男子は仙台大明成が東北を148-22で下し、10年連続15回目の優勝。男女アベック優勝を果たした仙台大明成に加えて、男子は東北、女子は聖和学園の計4校が、12月に開催されるウインターカップへの出場権を手にした。

◆男子優勝決定戦

豪快なダンクでリングを揺らした。63-6の第2クォーター、199センチの仙台大明成・山崎一渉^{いぶ}(3年)がパスを受け、両手でゴールに突き刺した。後半も開始から3Pシュートを沈めて勢いづけ、チームは今大会全5試合“100点ゲーム”で危なげなく10連覇達成だ。

エースが58得点を挙げて本戦へ導くも、佐藤久夫監督は「オフェンスでゾーンに入れず、決めるべきところで決められない。本人の中でまだ、壁がある」と指摘した。

昨年もエースとして全国制覇に貢献した。今夏のインターハイ後に「久夫先生に主将を任され、嬉しかった」とふり返る。連覇を狙う最終学年は「今年も絶対優勝したい。力強いプレーはチームが勢いづくので、ダンクができるときは積極的に狙えば」と意気込んだ。初めて決めた中3時から約10センチ伸びた身長で、18日の決勝は2度もダンクを決めた。“八村Ⅱ世”の呼び声高い山崎一が、ウインターカップでも豪快シュートをさく裂させる。(小山内彩希)

◆女子優勝決定戦

延長戦の末に聖和学園を撃破した仙台大明成の女子選手たちは、抱き合って喜びをかみ締めた。昨年大会では決勝で58-65で敗れた因縁の相手に雪辱し、2年ぶりの大会制覇だ。フォワード(F)・大久保 凧紗^{なぎさ}主将(3年)は「本当にうれしい」と満面に笑みを浮かべた。

劇的だった。第4クォーター(Q)、残り約7秒の時点で64-67。敗戦濃厚の状況にも、誰も諦めなかった。残り約3秒。パスを受けたF斉藤花帆(3年)が体勢を崩しながら3点シュート。同点に追いつくと、計5分の延長戦では相手を圧倒。79-73で勝利を収めた。

準備が実った。6月の宮城県高校総体女子決勝では、聖和学園に61-69で敗北。安達美紀監督は7月以降は攻守両面で鍛え直してきた。力を入れた練習の一つが「状況別の練習」だ。「残り1分で5点差」や「残り10秒で3点差」など追いかける状況も想定して、練習を積んできた。第4Qの終了間際に同点の3点シュートを決めたF斉藤は「いろんな状況を想定した練習をしてきたおかげです」と胸を張った。2年ぶりのウインターカップに向け、大久保主将は「ベスト4を目標に頑張りたい」と闘志を燃やしていた。(高橋宏磁)